彼方【かなた】

校長通信
H26.3.12
Vol.38

【平成二十五年度　第六十七回卒業証書授与式　式辞】

厳しい冬の寒さを乗り越え、全身で春の暖かさを感じられる季節になりました。

一六五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様、本日は、本当におめでとうございます。

また、このよき日に我孫子市長、星野順一郎様、我孫子市教育委会、小島茂明様をはじめ、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様にご臨席を賜り、「第六十七回卒業証書授与式」を挙行できますことに大きな喜びを感じております。心より感謝申し上げます。

さて、この式辞が、皆さんに送る最後の私の授業です。昨年度の卒業生には「今を一生懸命生きる」ということを伝えました。みなさんには「変わる」ということテーマに話します。

「あなたの学校はどんな学校ですか？大変な学校だという噂を聞きましたが…。」

「はい！二年生の時は確かに落ち着かなくて大変なときもありましたが、今は、どのクラスも笑顔で過ごすことができるようになりました。私は、言われるほど大変だとは思っていません。逆に明るい挨拶もかわせますし、行事にも熱心に取り組んでいます。部活動も活発です。それに何より今は、勉強で分からないところをみんなで学び合うようにもなりました。とても楽しい、良い学校だと思っています。」

答え辛い質問だったと思いますが、質問している私が逆に責められているような感じがするほど、キッパリと自分の気持ちを話していました。言い方こそ違いますが、質問された人はみんな「学校生活が楽しい」「湖北中が好きだ」「変わりました」と答えていたのです。素直に自分の思いを語る姿には感激し、うれしくなりました。

みなさんは、本当に強くなりました。仲間に対して「止めなよ！」「一緒にやろうよ！」と声を掛けられるようになりました。体育祭での取り組みは最高でした。どの種目も応援も係の活動もみんなで声を掛け合い、助け合う姿が見られました。合唱コンクールもそうです。声を合わせ、息をそろえ、心をひとつにして練習する声が響くようになりました。進路に向けても同様です。朝の学習会に欠かさず参加した人、土日に登校し、学校で勉強した人、何より仲間同士で面接練習をしたり、勉強を教え合ったり。みんなで助け合うようになりました。

なぜこのように変われたのでしょうか？

それは、他への思い、自分のことだけでない周りへの気遣いだと思います。「誰かのために自分ができることは何か？」ということを一生懸命考え、行動に移したからです。

これは言葉で言うほど簡単なことではありません。人差し指を周りに向けて、自分が動けない理由をその指先に置けば、今の自分が守られ、安心できます。変わるというのは、自分にとって守られず、安心できないところに身を置くことです。それには強い覚悟や決心が必要です。人がなかなか変われないのは、そのためです。

でも、人差し指を人に向けたとき、残りの指はどちらを向いていますか？三本の指は自分の方に向いています。これは、「他に原因を探して指先をそこに向けるより、自分を変える方が簡単に変えられる」ということです。

自分で決めて、自分の行動を変えることの方が、ずっと楽で、楽しく挑戦できます。

みなさんも「笑顔」を作り出すために、待つことではなく、自ら動くことを選択したのです。指先を自分に向け、周囲のために何ができるかを考え、よりよい行動をとり続けたのです。そして水面に広がる石の波紋のように大きな輪となっていったのです。

「先生、何だか自分が変わった気がします。今は落ちついていて楽しいです。学級の仲間と過ごしていられるのがうれしいです。自分の周りにいる人も変わってきたような気がします。」

「そうか、それはあなたが変わるって決めたから、行動が変わってきたんだね。本当に成長したね。何だか嬉しいなー。」

最近そんなやり取りをしました。「変わる」というは「成長」であり、「楽しさ」「喜び」なのです。

それは、みなさんが自分で判断し、自分から動き、助け合って生きようとする、「自主貢献」という学校教育目標そのものを目指してきた姿でもあります。

昨日は、助け合って今を一生懸命に生きなければならないことを教えてくれた三度目の三月十一日を迎えました。そしてその四月に入学したみなさんは、明るい「笑顔」を最後まで忘れずに助け合い、確実に変わっていく姿を残す学年となりました。その姿から沢山の学びを在校生や我々に与えてくれました。心から「ありがとう」と「おめでとう」を送りたいと思います。

結びになりますが、本日、ご多忙にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、これからも温かく卒業生並びに湖北中学校へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

保護者の皆様、微力ながら我々も力を合わせて一生懸命教育してまいりました。そんな我々をいつも温かく支えていただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以上、一六五名の卒業生の輝かしい門出を祝し、式辞といたします。

中学校三年間の心身の成長は、一生の中で最も大きいような気がします。特に心の成長は、目にはなかなか見えにくいものがありますが、行動に表れてきます。いわゆる「心が態度に表れているぞ！」という先生方の声掛けです。

中学校での一番大きな心の変化は、自分から人のことを考えて動けるようになるということです。家の人や先生から言われなくても周囲を気遣い、思いやることができるということです。大人になるというのは、そういう考え方ができるということです

でも現実にはなかなか大変です。周囲を思いやり、助け合わなければならないと分かっていても行動に移せないでいるのも事実です。それでも東日本大震災で見せた日本人の素晴らしさ、凄さを私達は日々の生活の中で培っていかなければならないのです。

卒業という節目を迎え、年齢だけでなく、心も身体も大きく成長した卒業生に日本の将来を託し、さらなる成長（変化）を願ってやみません。

私達は、いつまでも彼等の応援団でいたいと思います。